

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 15 日現在

機関番号：37112

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520450

研究課題名（和文）制約の相互作用に基づく言語文法理論の研究

研究課題名（英文）Approach to the linguistic theory based on the interaction of constraints

研究代表者

宗正 佳啓（MUNEMASA YOSHIHIRO）

福岡工業大学・社会環境学部・准教授

研究者番号：10341463

研究分野：英語学

科研費の分科・細目：言語学・英語学

キーワード：制約、階層性、相互作用、移動、補文、言語差異

1. 研究計画の概要

本研究は、これまでの研究をさらに発展させ、従来補文標識の体系内の問題とされてきた現象や wh 移動に伴う付随現象を取り上げ、詳細な調査データを基に帰納的に抽出してきた制約の相互作用が他の構文や従来例外として除外された現象に作用することを示し、通言語的変異の可能性がどこに由来するか検討するとともに、そこに働く文法原理が他の諸現象といかに関わるかを明確化し、より良い普遍文法理論構築への貢献を目指す。そして普遍文法と言語獲得を有機的に関連づけるために、子供の発話についても通時的・共時的に調査し、それらを原理的に説明できる普遍文法理論と言語獲得モデルを説明することを最終目標とする。

2. 研究の進捗状況

(1) Wh-agreement に関わる言語事実や構文について通言語的に調査・研究を行い、類型化を行った。特に wh-agreement がどのような環境で生起するのか、それが生起した場合どの範疇に具現するのか言語タイプ毎に整理した。

(2) 補文標識は言語によってはそれが支配

する TP の主要部と一致現象を起こすが、それを詳細に調査し類型化した。

(3) 補文標識が Pesetsky & Torrego (2001, 2004) が主張するように、T-to-C movement によって主要部移動をするという可能性を様々な言語データを基に導き出した。

(4) Helsinki Corpus は 8 世紀から 18 世紀初頭までの多数にわたるテキスト・タイプを集めた総計数約 160 万語のコーパスであるが、汎用コーパスを目的として作成されているため、それぞれのテキストがフルテキストとして収録されていないという問題点がある。特に古英語と中英語の語数が他の時代区分の語数と比較すると少ない。この問題を解決するため中英語までのテキストをフルテキスト化し、WordSmith や KWIC Concordance 等の検索機で検索可能な状態にした。

(5) 古英語、中英語、初期近代英語等の文献、データ、コーパスを基に、それぞれの時期の wh 移動の特徴や現代英語との差異、V2 現象の消失の時期、動詞の V-to-I movement の消失の時期、do-support の導入時期、補文標識の移動の可能性を通時的に調査した。

(6) 収集した言語資料を基に上記の文法現

象を生起させる制約を帰納的に導き出し、既存の制約との相互作用を確認して行き、通言語的な差異の可能性がどこに由来するのかを検討した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

言語事実や構文について通言語的な調査・研究、類型化がほぼ計画通りに進み、データに基づいた制約の抽出が可能となったため、研究目標の普遍文法理論構築が進展しているため。

4. 今後の研究の推進方策

文法現象に関するデータと子供の発話データを突き合わせ、共通性や差異を比較・検討し、通言語的多様性を説明することのできる普遍文法と言語獲得モデルが満たすべき制約を追求し、より良い文法理論を構築する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 宗正佳啓、名詞句からのWh移動、福岡工業大学研究論集、43巻、1号、P21-P26、2010、査読なし
- ② 宗正佳啓、名詞句内のwh移動と優位性効果、福岡工業大学研究論集、42巻、2号、P147-P152、2010、査読なし
- ③ 宗正佳啓、多重wh疑問文とその言語差異、福岡工業大学研究論集、42巻、1号、P37-P51、2009、査読なし
- ④ 宗正佳啓、On the Features of the Extended Projection Principle、*Research Bulletin of Fukuoka Institute of Technology*, vol. 41, no. 1, P11-P29、2008、査読なし

- ⑤ 宗正佳啓、EPP素性とwh移動、九州大
学言語学論集、第29号、P1-P32、
2008、査読あり

[学会発表] (計0件)